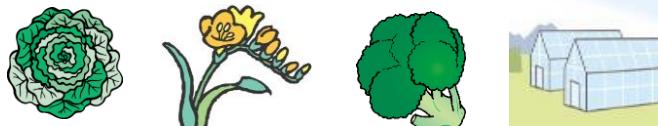


# 水稻と施設園芸の複合経営 水稻育苗と花卉園芸によるハウスの周年利用

桶谷 誠（加賀市）

水稻以外の主な園芸作物等



※ イラストはイメージ

## 園芸作物導入の経緯等

- ◆ 農業で生計を立てる大きな目標を抱き、2007年にサラリーマンを辞め親元就農し、水稻と施設園芸（いちご栽培）を開始。
- ◆ 現在の経営規模は、水稻約10ha、大豆約2ha、ビニールハウス7棟（約30a）で水稻育苗及び葉ボタン（4棟）・フリージア（3棟）、露地野菜約2haでブロッコリーを栽培。
- ◆ 主な労働力は、夫婦2名。花卉の出荷時期にパート従業員1名を雇用。



ハウス内での桶谷夫妻



ビニールハウス群



葉ボタンのハウス栽培



葉ボタン

## これまでの課題に対する対応

- ◆ 知人のパティシエに頼まれ、就農当初は7棟のビニールハウスを建てて、ケーキ用のいちご栽培を開始したが、水稻育苗の依頼があり、一部のハウスで育苗を始めたところ、地域の中小規模農家からの依頼が年々増加したことから、全てのハウスを水稻育苗に転換した。
- ◆ 水稻育苗期以外は、葉ボタンとフリージアを栽培するとともに、フリージアの球根の養成、葉ボタンとブロッコリーの苗作りも自家で行うことで、コスト削減につながり、所得はいちご栽培を上回った。

## 今後の展望等

- ◆ 水稻育苗は、地域の小規模農家からの受託であり、地域農業を維持するため、依頼は可能な限り受託したい。
- ◆ 10年後には、利益に拘らずに地域貢献に尽力したいと考えており、その頃には、自らの経営が自立し安定した状態になっていきたい。



フリージアのハウス栽培

(令和3年11月)